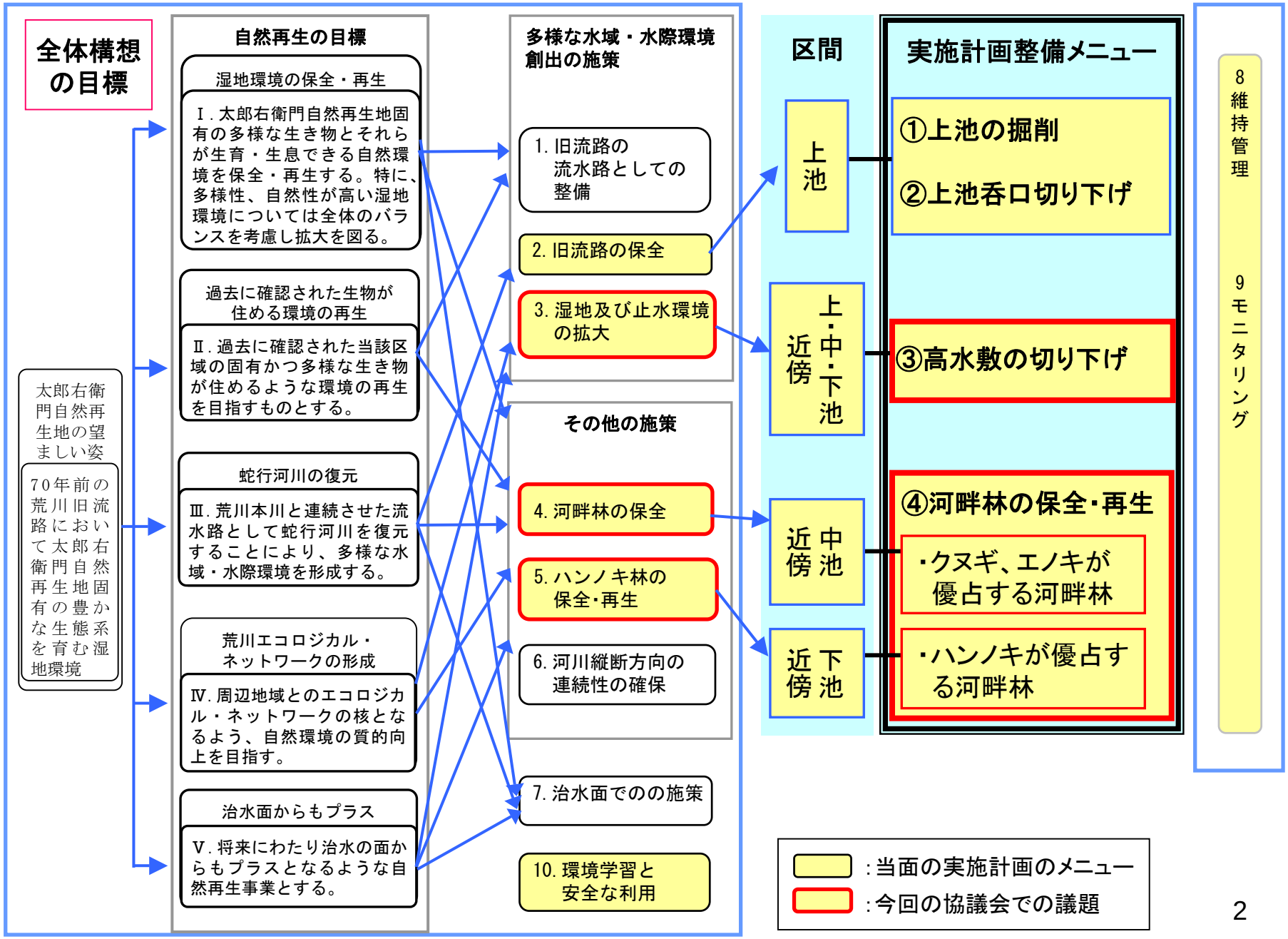
資料-1

荒川太郎右衛門地区自然再生事業

実施計画の施策（案）について

平成20年10月

1.実施計画における事業の実施内容



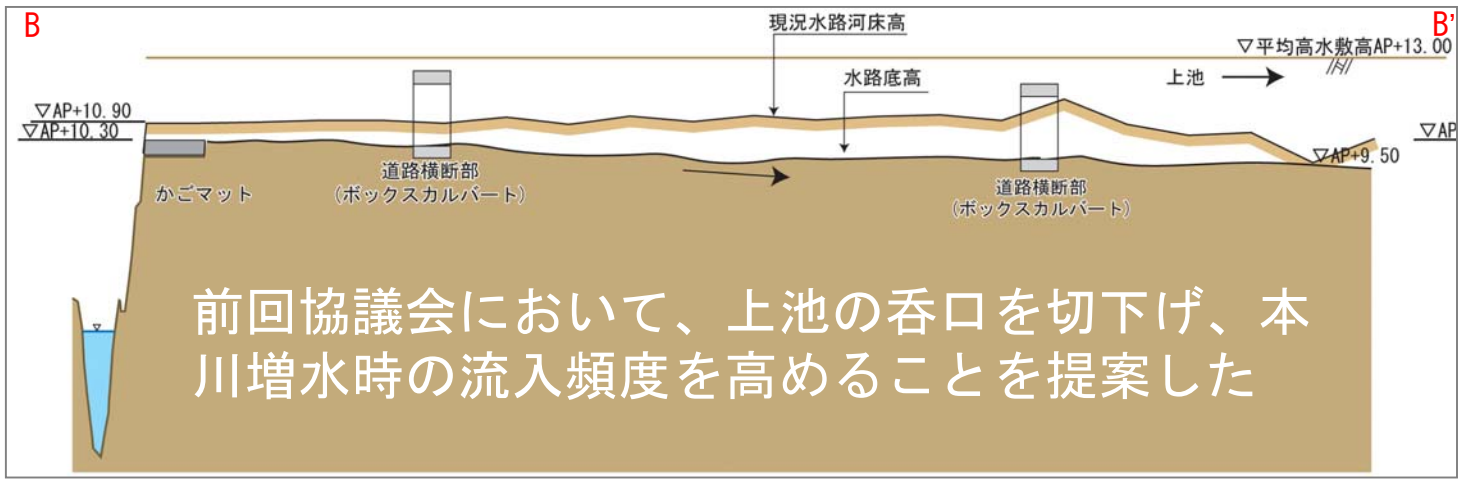
2.個別施策

1）旧流路の保全

②上池呑口の切下げ

■前回協議会における協議の概要

平面図



※横断図の縮尺は 縦：横=10：1

縦断図

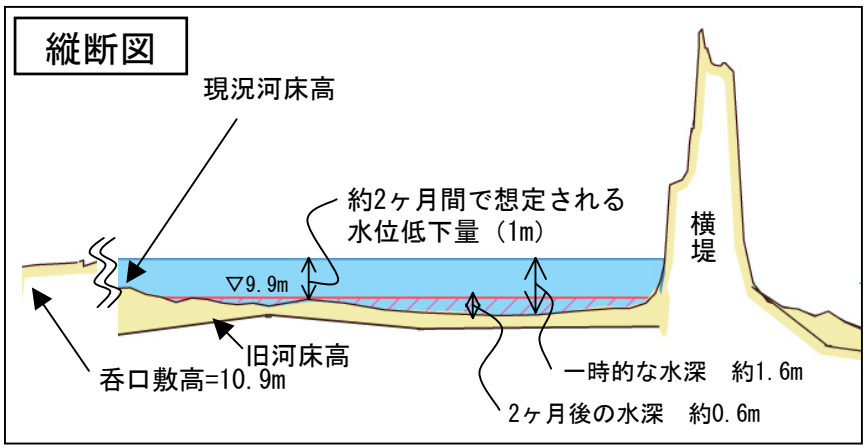
前回協議会での意見

呑口の切下げにより、本川増水時に流入しやすくなるが、同時に減水後に流出しやすくなることから、上池（下流側）について現状より乾燥化しやすくなることが懸念される。

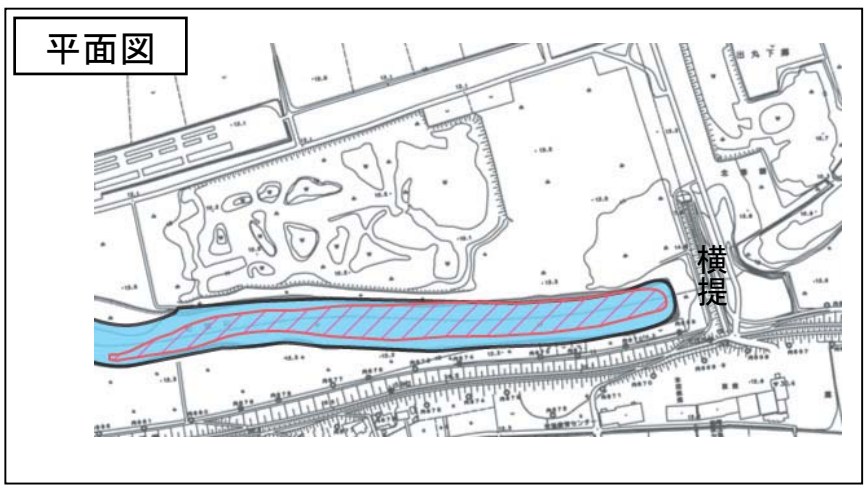
■前回の説明■
呑口の切り下げにより上池の湛水特性に変化が生じる可能性がある

現況

縦断図

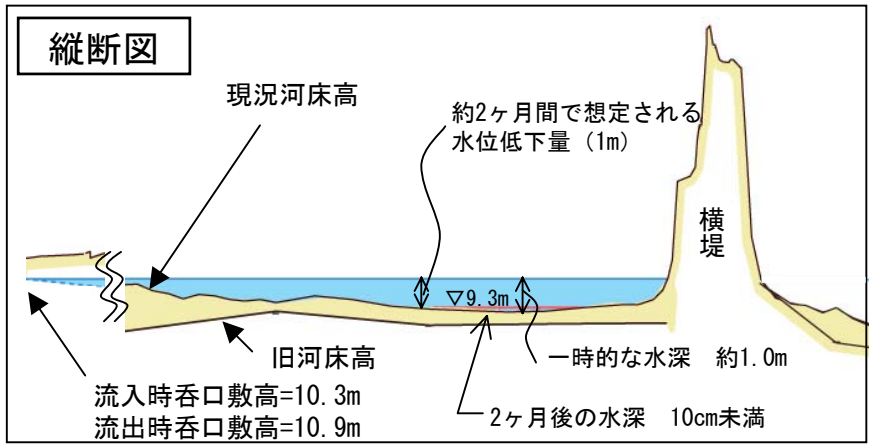


平面図

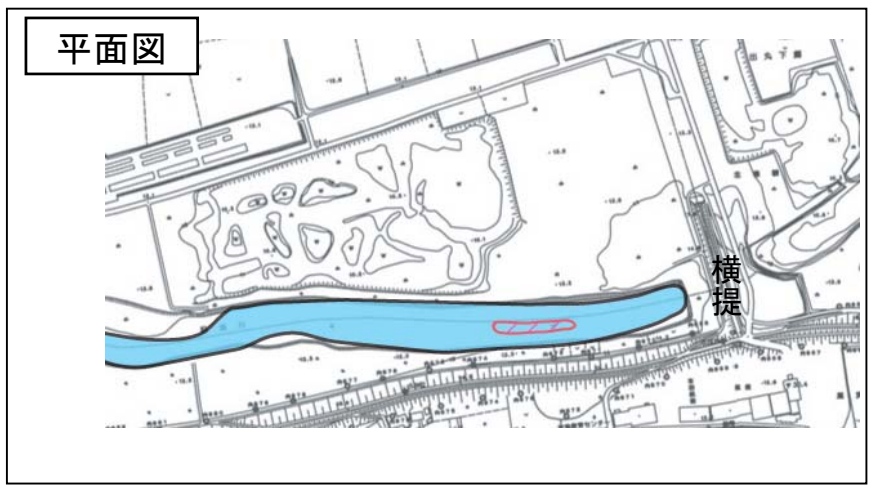


呑口切下げ後（無対策）

縦断図



平面図



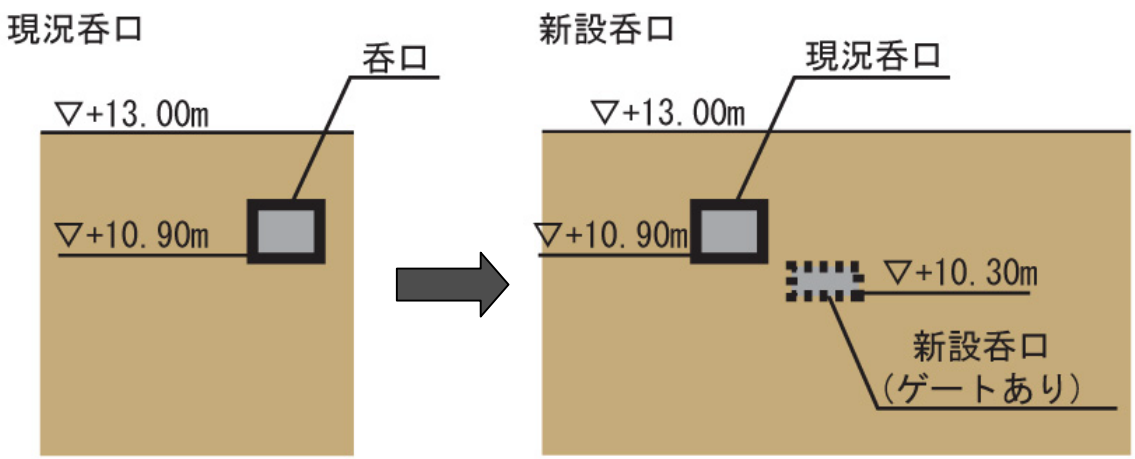
一時的に形成される水面
2ヶ月後に形成される水面

■第20回協議会の意見を踏まえた提案

現況呑口と比較して、荒川本川が増水したときに流入しやすく、なおかつ減水時には流出しにくい構造とする。

・新設呑口の敷高は、現況呑口よりも低い高さ（A.P.10.3m）とする。
・増水時に上池にたまった水が、減水後に現況の呑口の高さ（A.P.10.9m）以下で流出しないよう、ゲートを設置する。

呑口現況写真



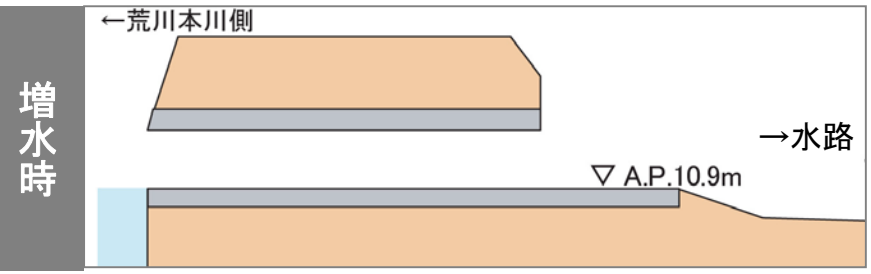
呑口部正面図

※新設呑口の位置については、施工性、周辺への影響を考慮した上で今後検討する。

呑口流入・出イメージ

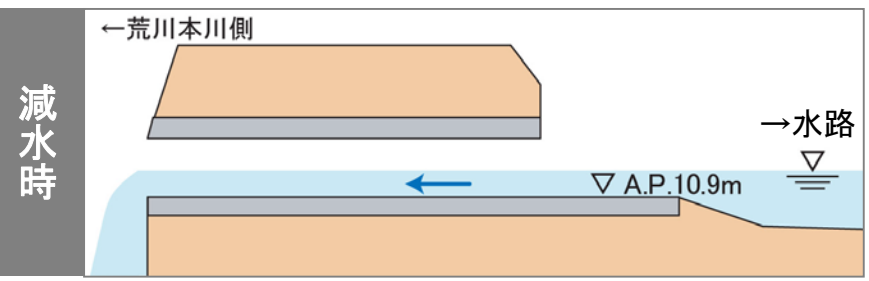
現状の呑口

増水時



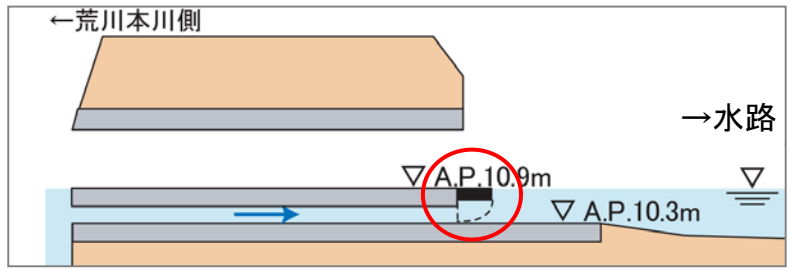
10.9m以下では流入しない

減水時

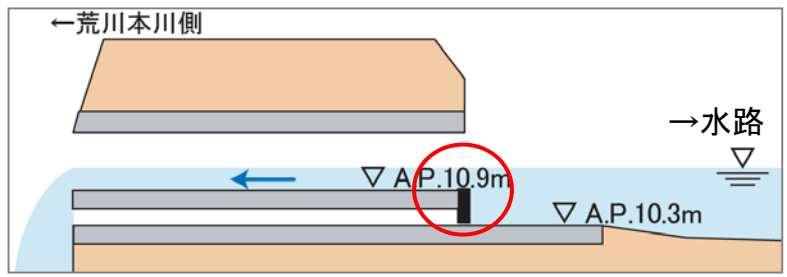


10.9m以上の水が呑口から流出する

改築後の呑口



ゲートが水の流れで開き、上池へ流入する



ゲートが閉まり、10.3mの高さでは流出しない

2.個別施策

2）湿地及び止水環境の拡大

■湿地及び止水環境の拡大の方針

太郎右衛門地区全体で湿地環境が減少しているため、湿地及び止水環境をモニタリングしながら段階的に創出する。

上池近傍の高水敷の様子（横堤付近より）

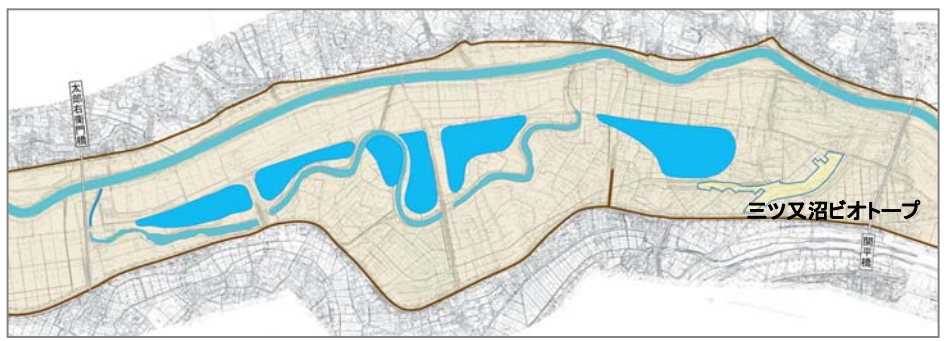
■整備メニュー

高水敷切下げ

■進め方

湿地及び止水環境の拡大を図る範囲及び掘削高さ、形状については、試験施工及びモニタリングを実施しながら決定する。

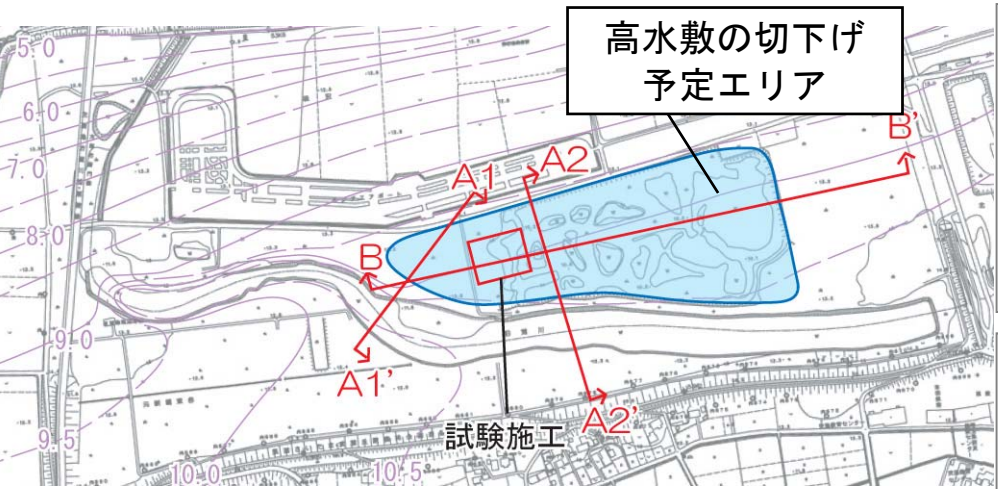
（当面は、上池近傍の高水敷切り下げの実施について検討する）

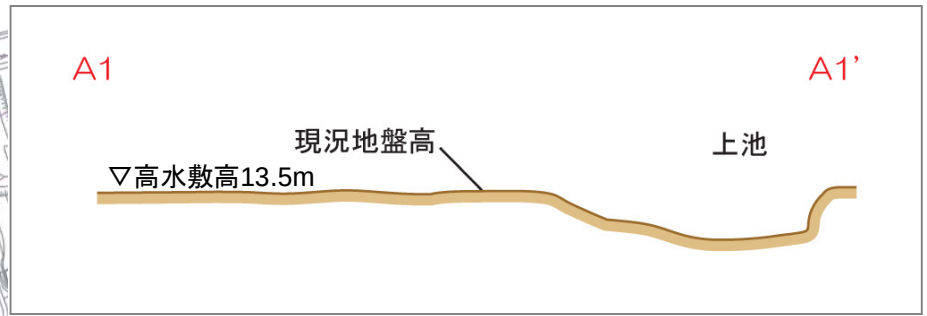


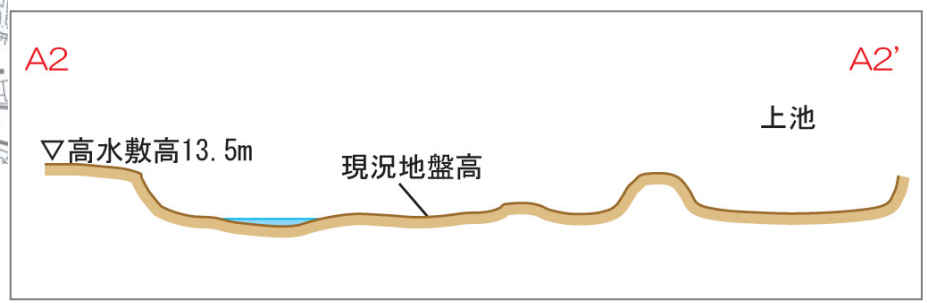
：湿地及び止水環境の拡大を図るエリア

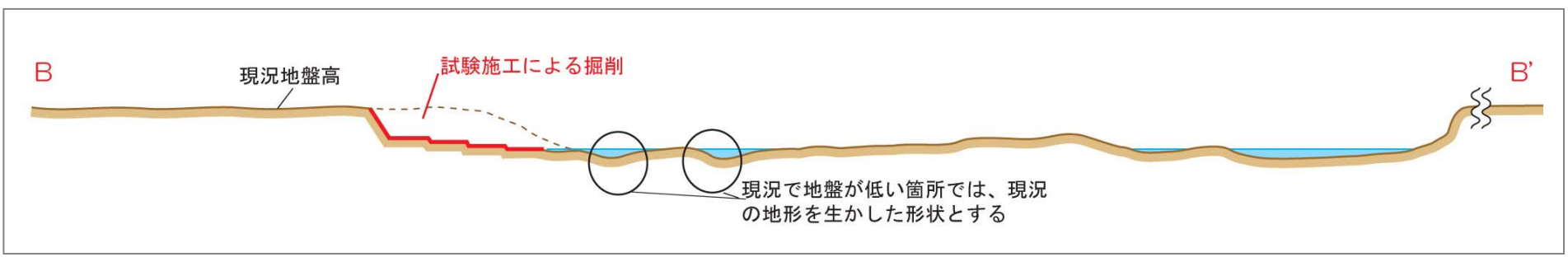
高水敷の切下げ

上池近傍の高水敷掘削の範囲、掘削高さ及び形状については、試験施工の結果を踏まえて検討する。









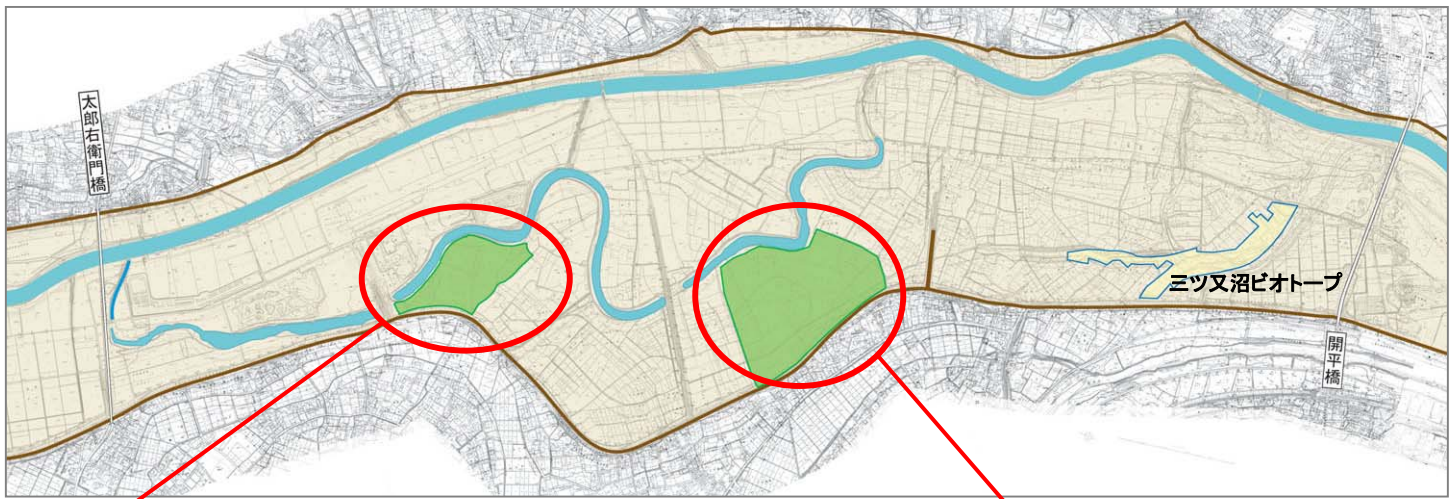
※横断図の縮尺は縦：横=4：1

3）河畔林の保全

■河畔林保全の対象地

a)クヌギ、エノキが優占する河畔林（中池近傍）

b)ハンノキが優占する河畔林（下池近傍）



クヌギ、エノキが優占する河畔林

中池近傍の河畔林の様子

ハンノキが優占する河畔林

下池近傍のハンノキ林の様子

■保全・再生方針

既存の河畔林を良好な状態で保全するとともに、周辺部においては
まとまった自然地や河畔林の拡大を図る。

■整備メニュー

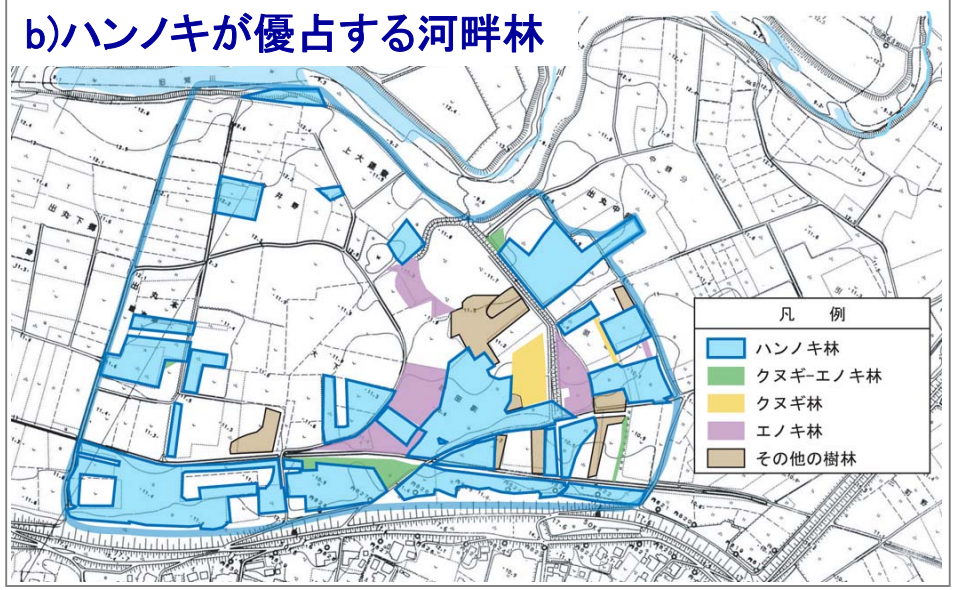
河畔林の保全・再生

・河畔林が生育している箇所では、河畔林を保全し、自然発芽可能な環境を整える。

・河畔林が生育していない箇所では、河畔林や在来植生が生育可能な環境を整え、範囲を拡大する。

※具体的な内容については、生態系モニタリング専門委員会へ諮る。

※上記に関わる具体的な維持管理方法及び維持管理体制については、ワーキンググループにおける意見を踏まえ検討する。

a)クヌギ、エノキが優占する河畔林

b)ハンノキが優占する河畔林